

(1) アニマシオン

主体的に読む力を育むアニマシオン

荒川区立ひぐらし小学校図書館 編



実践事例	
1	対象(年齢・学年)等 : 小学校4年生
2	実施時期 : 平成23年度2・3学期(9月～2月)
3	概要 : モンセラット・サルト著『読書へのアニマシオン75作戦』のうち、中学年向きのを繰り返し行うことで、児童の読む力を引き出し、主体的に考えて意見を述べる力を育てる。
4	内容 《アニマシオンの約束・実践のポイント》 <ul style="list-style-type: none">・勝手に話さない。意見があったら、手を挙げてから答える。・人の意見をよく聞く。人の意見を批判しない。・アニマドール(進行役)は、参加者が率直に意見を発表するのを妨げないようにする。また、対話に割り込む人を仲裁したり、受け答えが感情的になり過ぎた人を落ち着かせたりする。・予め本を読んでおく必要があるときは、実践の1週間前に数冊の本を用意する。読み終わったら名簿にシールを貼るようしておく。 実践例(1) 作戦5 いる?いない? ～『王さまと九人のきょうだい』～ <ul style="list-style-type: none">* 準備: 予読、登場人物一覧表① 登場人物一覧を見て、いる人に○を付ける。② 順に、いるかいないか答えていく。いる場合は、どこで出てきたのかも答える。③ どちらか分からない場合は、保留にする。④ 最後に読み聞かせを聞き、答えを見つける。 実践例(2) 作戦34 彼を弁護します ～『泣いた赤おに』～ <ul style="list-style-type: none">* 準備: 予読、登場人物の名札カード① アニマドールが、作品のテーマ(善意の尊さや無償の愛など)を、端的に分かりやすく話す。② 赤おに役、青おに役、人間役それぞれ5人ずつ前が出る。残りの人は読者役。③ 読者役が、登場人物に物語の中での言動や態度について質問をする。登場人物は、自分たちの言動や態度の理由を説明する。答えられなかったときは、全員を対象に答えられる人が答える。アニマドールは、参加者が推論や本に書かれていないことを論拠に意見を述べた際には、本の内容に戻るよう声をかける。④ 読者役の問題が終わったら、役を交代する。
5	参加者の反応 (児童の感想) <ul style="list-style-type: none">・毎回内容が違って、わくわくする。楽しみ。・正解が分かったとき、みんなが納得できてよかった。・前より、本が楽しく読めるようになった。・物語の流れや人物の言葉に注意しながら読むようになった。・大きな字しか読まなかったが、小さな字も読めるようになった。 (指導者の感想等) <ul style="list-style-type: none">・児童は、次のアニマシオンの本を楽しみにしている。・発言することが苦手な児童も、できるようになってきた。・学級に、「アニマシオン係」ができた。
6	連携した諸機関 荒川区立図書館、荒川区内小学校・中学校、荒川区教育委員会学校図書館支援室

